

林業ミニ情報 No.140

平成29年3月

- 1 ひたち林業探検少年団の修了証授与式について1
(常陸太田林業指導所 塚原)
 - 2 潮来市大生原小学校で木工工作体験を実施1
(鉾田林業指導所 仲野)
 - 3 竹林やたけのこを活用した観光プロデュースについて2
(土浦林業指導所 加藤)
 - 4 簡易殺菌法による原木マイタケ栽培の研修会を実施3
(林業技術センター 清水)
- 〔林産情報〕 素材・製材品価格及び新設住宅建設の動向6
(林業技術センター 益子)

1. ひたち林業探検少年団の修了証授与式について

去る2月12日(日)に、日立市十王総合健康福祉センターで、平成28年度日立市職業探検少年団合同修了証授与式があり、11団体115名に修了証が授与されました。日立市における職業探検少年団の取組は今年で11年目になり、子供たちが職業への理解を深める重要な場となっています。ひたち林業探検少年団は、この職業探検少年団の中の1団体として、下刈り体験や間伐体験など月1回程度の活動を通して森林・林業に触れました。

今回、ひたち林業探検少年団で修了証を授与された団員は9です。名前を呼ばれた団員は1人ずつ大きな声で返事をし、緊張した様子でその場に起立しました。そして、代表の団員が壇上に上がり、南卓夫団長から修了証を受取りました。

その後、各少年団の代表団員による1年間の活動報告があり、ひたち林業探検少年団は年間の活動を振り返り、8月に木材関連施設を見学したことや12月に間伐体験とつるを使ったクリスマスリース作りをしたことなどの感想や思い出を話しました。団員たちは森林に触れる活動を通して、森林を守ることの大切さに気づいたようです。

当林業指導所では、ひたち林業探検少年団に入団した子供たちが森林・林業、環境保全といった山の仕事に興味を持ってもらえるように、引き続き活動を支援していきたいと考えています。

(常陸太田林業指導所 塚原 洋明)



修了書授与の様子



活動発表の様子

2. 潮来市大生原小学校で木工工作体験を実施

去る2月23日(木)、潮来市立大生原小学校の4～6年生32名を対象に、当林業指導所の林業普及指導員による指導のもと、森林・林業教室(木工工作体験)として間伐材を使った木製の三脚を製作しました。

同校は、森林・林業の体験を通じた環境教育に対する理解と関心が高く、これまでも体験学習を積極的に実施してきており、現在は、間伐等の作業体験と木工工作を一

年おきに行い、2年間で素材生産から加工・活用までを体験させることとしています。

昨年度は間伐・枝打ち体験を実施したため、今回は、間伐材の活用として木工工作体験を実施したものです。

なお、当日はあいにくの雨模様であったため、作業は体育館の中で行いました。


はじめに、林業普及指導員から、作業の流れや道具の使い方について説明を行ったあと、6つの縦割り班に分かれ作業を行いました。

作業は、まず丸太の皮剥きです。小鎌や鉋を使い皮を剥きましたが、冬期に伐採された材であったため、中々思うように作業が進まない様子でした。

皮が剥き終わり組み立て作業に移ると、今度は予め開けておいたボルト用の穴がうまく合わず、試行錯誤しながら組み立てました。

今回の三脚製作は学校側からの要望を受けて行ったもので、今後は木工工作を行う際の作業台として、また、丸太を乗せベンチとして使いたいとのことです。

当林業指導所は、次代を担う子ども達に、森林・林業に対する理解と関心を深めてもらうため、今後も、様々な体験活動を通じて指導を行っていく考えです。



丸太の皮剥きの様子



完成した三脚の前で記念撮影

(鉾田林業指導所 仲野 繁)

3. 竹林やたけのこを活用した観光プロデュースについて

阿見町では、土地面積に占める竹林面積の比率が県内トップクラスであり、たけのこの生産も盛んなことから、筍料理フェア「たけのこほっぺ」をはじめ、竹林やたけのこを活用して、「観光資源」・「観光物産」として育て上げていく取組を行っています。

近年、圏央道の開通や、あみプレミアム・アウトレットのオープンにより、町外・県外からの訪問者が増える中で、阿見町では地域の観光資源を発見、再価値化し、観光振興のきっかけづくりを行うことを目的に、平成20年7月に「阿見町観光プロデュース会議」を発足させました。

その会議から、竹林やたけのこを活用した施策が提案されました。具体的には、竹

林整備による景観の向上や作業を通じた地域住民の交流活動の促進，竹あかりや竹座敷などの竹加工品の開発，販売やイベントでの活用など，町ぐるみでの取組を行っております。

中でも，阿見町産のたけのこを町内でよりおいしく食べてもらおうと，筍料理フェア「たけのこほっぺ」を平成22年4月から始めています。

「たけのこほっぺ」とは，茨城弁の「掘りましよう」の「ほっぺ」と，「ほっぺが落ちるほどおいしい」の「ほっぺ」をかけた言葉で，この名称から「ほっぺちゃん」というPRキャラクターまで誕生するイベントとなりました。

しかし，東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の影響により，平成24年3月，出荷自粛となり，平成24年の筍料理フェアは他産地のたけのこを使用して行いましたが，それ以降は，休止する事態となってしまいました。

その後，たけのこに含まれる放射性物質濃度の低減傾向が見られたことから，当指導所では，町に対して安全性を確認するための検査実施や出荷自粛の解除に向けての指導を行い，平成27年10月に解除することができました。

これにより，平成28年4月に筍料理フェアを再開することができました。主催者である「あみ観光協会」では，今年も4月8日から30日の筍料理フェア開催に向け準備を着々と進めているところです。

当指導所では，特用林産の振興を図るため，まだ，たけのこや原木しいたけの出荷制限等が続いている市町村の解除を進めるとともに，安全・安心な特用林産物の流通の確保に努めてまいります。

(土浦林業指導所 加藤 智一)



たけのこ料理の一例



PRキャラクター「ほっぺちゃん」

4. 簡易殺菌法による原木マイタケ栽培の研修会を実施

原木で栽培されるマイタケは，味，香り，歯ごたえ等が天然マイタケに近く人気が高いが，殺菌や植菌施設整備に多額の費用を要することが課題となっていました。この

ため、当センターでは大がかりな施設を必用としないドラム缶を利用した簡易殺菌法と、ビニールを利用した簡易植菌室による原木マイタケ栽培技術を研修を行っているので、その概要を紹介します。

研修は、林業専門技術員が講師となり去る3月9日（木）～10日（金）の2日間実施し、新たに栽培に取り組む予定の3グループ11名と林業普及指導員2名が参加しました。

1 原木及び殺菌の準備（研修前日）

事前に用意した原木を約15cmに玉切り、ドラム缶に入れた後、ドラム缶の8分目程度まで水を入れ、予備焚きを行ないそのまま一昼夜浸水します（今回は原木を105個作成し、ドラム缶を3個使用）。

2 殺菌作業（3月9日）

水分の蒸発を少なくするためにドラム缶に蓋をしてから薪に火を付け、沸騰後4時間程度煮込みます。

3 植菌室の準備（3月9日）

倉庫内の床にブルーシートを敷き、ビニール製の蚊帳をつり簡易植菌室を作ります。内部に、空気中の雑菌や塵を落とすための逆性石けん液（オスバン1,000倍液）と殺菌のためのエタノール（70%液）を霧吹きで十分に噴霧します。

4 袋詰め作業（3月9日）

原木の殺菌後、原木が冷める前に先の鋭利な鉄のはさみで原木を取り出し、きのこ培養用の袋に詰め、袋の口を2～3回折って、洗濯ばさみで留めます。

袋に入れた原木は直ぐに植菌室へ入れ、再び逆性石けん液とエタノール液を霧吹きで植菌室内を噴霧し、一晩放置して冷却します。

5 植菌作業（3月10日）

今回は5～6人の2グループに分かれ、作業を行ないました。先に手をよく洗い、ビニール手袋、マスク、雨カップを着てから植菌室に入り、室内に逆性石けん液とエタノール液を噴霧します。さらに種菌ビンと植菌器具等をアルコールで殺菌後、種菌ビンの中央をカッターナイフで切断し、中の種菌をボール等に掻き出します。続いて原木の入った袋を開き、種菌をお玉で木口面に乗せ、袋の口を2～3回折り返し、ホチキスで3～4カ所止めます。



ドラム缶を利用した簡易殺菌の様子



ビニールを利用した植菌室の様子

6 培 養

今回植菌を行なった原木は、生産者支援施設の培養室で培養を行なった後、参加者に配布し、各自が伏せ込みを行うこととしました。

最後に研修全体に亘り参加者から、今後各自で培養を行うときの場所の条件や、伏せ込みの仕方等について積極的な質疑がありました。培養については、物置、納屋、蔵等の直射日光が入らず、温度が高くない場所で行うこと。伏せ込みは、原木の表面が菌糸の膜で完全に覆われた状態を確認し、6月下旬～7月中旬頃に直射日光の当たらない水はけの良い場所に行くことを説明しました。

当センターでは、上記の簡易な殺菌や植菌技術の普及を図り、本県が独自に開発した春に発生する原木マイタケの生産を振興し、地域の特産品として育てていきたいと考えています。

(林業技術センター 清水 勲)

〔林産情報〕

茨城県の素材・製材品価格(平成29年)

単位：円/㎡

区分	樹種	規格	区分	H28年 平均	H29年 時点平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
国産材	スギ	3.00 × 14~20	柱材	11,800	14,300	16,500	13,000												
		3.65 × 18~28	中目材	15,800	12,800	12,700	12,800												
		4.00 × 8~13	小径材	11,900	12,100	12,300	11,900												
	ヒノキ	3.00 × 14~20	柱材	14,800	16,300	16,700	16,800												
		4.00 × 18~28	中目材	16,700	16,600	16,500	16,700												
		4.00 × 8~13	小径材	10,300	11,700	11,400	11,900												
	外材	米マツ	6.00 × 30	No.3	30600	32,100	32,100												
		米ツガ	6.00 × 30	No.3	24,900	23,600	23,600												
		北洋エゾマツ	3.8 × 20~28	込み	22,900	23,700	23,700												
製材	スギ	3.00 × 10.5 × 10.5	柱・KD特	60,600	63,000	63,000													
		4.00 × 10.5 × 10.5	柱・KD特	68,300	63,000	63,000													
		3.65 × 1.4 × 10.0	スギ・グリーン特	42,700	46,000	46,000													
		3.65 × 3.6 × 4.5	ヒノキ・グリーン特	48,600	43,000	43,000													
		4.00 × 9.0 × 9.0	母屋・グリーン特	35,300	31,000	31,000													
	ヒノキ	3.00 × 12.0 × 12.0	柱・KD特KD特	60,800	65,000	65,000													
		4.00 × 12.0 × 12.0	土台・KD特	65,900	70,000	70,000													
	外材	米マツ集成材	4.00 × 12.0 × 24.0	梁・桁・KD特	60,000	60,000	60,000												
		米ツガ	4.00 × 12.0 × 12.0	ヒノキ・グリーン特	68,000	68,000	68,000												
		欧州アカマツ	300 × 4.0 × 3.0	野縁・内地産KD	68,700	72,000	72,000												
		レッドウッド集成材	3.0~6.0 × 10.0 × 15.0~30.0	梁・桁・集成材	68,700	72,000	72,000												

茨城県の新設住宅建設の動向

単位：戸

区分/月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
28	着工数	1,412	2,007	2,079	1,734	1,857	1,983	1,944	1,910	2,205	2,369	1,639	2,211	23,350
	木造数	1,070	1,286	1,639	1,245	1,378	1,431	1,403	1,307	1,616	1,447	1,278	1,378	16,478
	木造率	75.8%	64.1%	78.8%	71.8%	74.2%	72.2%	72.2%	68.4%	73.3%	61.1%	78.0%	62.3%	70.6%
	累計	1,412	3,419	5,498	7,232	9,089	11,072	13,016	14,926	17,131	19,500	21,139	23,350	
29	着工数	1,442												1,442
	木造数	992												992
	木造率	68.8%	#DIV/0!	#DIV/0!	#####	#####	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	68.8%
	累計	1,442	1,442	1,442	1,442	1,442	1,442	1,442	1,442	1,442	1,442	1,442	1,442	

